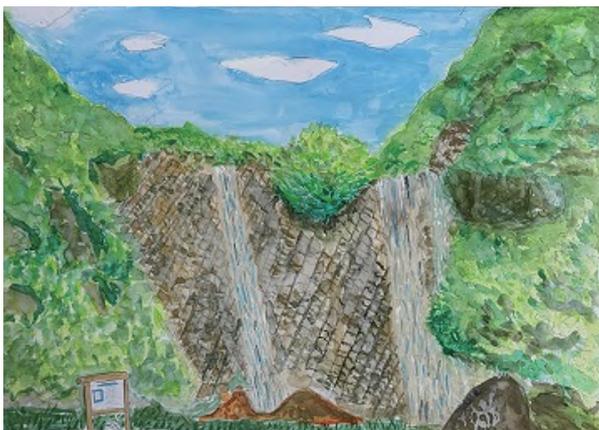


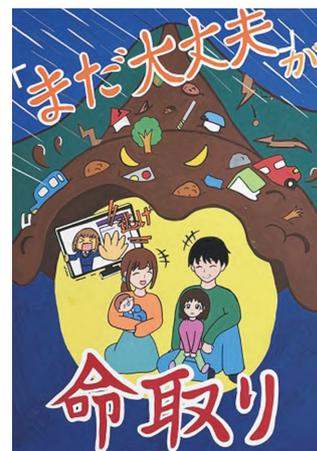
ぐんまの砂防



防災教育のモデル授業の様子(伊勢崎市立殖蓮第二小学校)



「榛名川上流砂防堰堤」
高崎市立乗附小学校4年 新居 郁人さん



「『まだ大丈夫』が命取り」
藤岡市立東中学校 2年 近藤 初音さん

INDEX

- あいさつ 1
- 群馬県治水砂防協会の活動 1
- 土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール開催 4
- 群馬県における土砂災害対策事業の紹介 7
- 群馬県砂防ボランティア協会の活動 11

あいさつ



会員の皆様におかれましては、日頃より、当協会の運営につきまして格別なご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、令和6年は、全国で1,434件の土砂災害が発生し、死者・行方不明者が58人、負傷者が11人、人家705戸の被害が生じました。特に、元日に大地震が発生した能登半島では、復興途上にあった9月にも線状降水帯による豪雨に見舞われ、再び大きな被害が生じました。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災された地域の日も早い復興をご祈念いたします。

能登半島地震では、土砂災害等により緊急輸送道路などの重要な交通網が寸断され、孤立集落が発生したほか、救命救助活動や支援物資の輸送が滞るなど被害が連鎖的に発生するという課題が顕在化しました。また、気候変動の影響等により、全国各地で気象災害が頻発化・激甚化する中、土石流やがけ崩れなどに加え、新たに「土砂・洪水氾濫」などへの対策が課題となっています。

こうした課題に対応するため、群馬県では、県土整備分野の最上位計画である「ぐんま・県土整備プラン」と砂防分野の個別計画である「土砂災害対策推進計画」の見直しを進めています。新たな計画においても、引き続き、防災インフラの整備や土砂災害における「逃げ遅れゼロ」に向けた警戒避難体制の構築等のハード・ソフトが一体となった土砂災害対策を推進していただくことを期待しています。

土砂災害から県民の生命や財産を守るため、防災・減災対策の重要性がますます高まる中で、当協会といたしましては、治水砂防事業の一層の推進が図られるよう、これからも国や県に対して、砂防関係事業予算の確保を強く要望し、「災害に強い県土づくり」に寄与してまいりますので、今後とも、格別のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

群馬県治水砂防協会会長 安中市長 岩井 均

群馬県治水砂防協会の活動

令和6年度の主な事業内容

年月日	活動内容	場所	主催
5月20日	群馬県治水砂防協会三役会・会計監査	県議会会議室	群治水
5月23日	全国治水砂防協会通常総会	砂防会館(東京)	全治水
6月1~30日	土砂災害防止月間	県内各地	国土交通省 群馬県
7月11日	群馬県治水砂防協会通常総会	県商工連会館	群治水
8月2日	第11回土砂災害対策実務者講習会	砂防会館(東京)	全治水
9月4日	国土交通省砂防部長への要望活動	国土交通省(東京)	群治水
10月22日	砂防事業の視察研修	嬭恋村ほか	群治水
10月26日	土砂災害に関する絵画・作文コンクール表彰式	県庁ビジターセンター	群馬県 群治水
11月7~8日	関東甲地区協議会通常総会・支部長会議	栃木県日光市	全治水関東甲地区協議会
11月14日	全国治水砂防促進大会 県選出国會議員への要望活動	砂防会館(東京) 議員会館(東京)	全治水 群治水
2月13~14日	第65回砂防および地すべり防止講習会	砂防会館(東京)	全治水
3月	「ぐんまの砂防」Vol.22発行		群治水

※ 全治水=(一社)全国治水砂防協会、群治水=群馬県治水砂防協会



全国治水砂防協会「第88回通常総会」への出席

令和6年5月23日に東京都千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにおいて、全国治水砂防協会第88回通常総会が開催されました。全国から会員等1,000名超が出席し、本県からは、岩井会長、熊川監事をはじめ会員市町村長等23名が出席しました。

議事では、令和5年度事業報告及び収支決算審議並びに公益目的支出計画実施報告、令和6年度事業計画報告及び収支予算報告、役員選任審議が行われ、審議案件は原案どおり全会一致で承認されました。

同協会評議員である岩井会長が、監事に選任されるとともに、砂防事業の推進への顕著な功績により、同協会の功労者表彰を受賞しました。



【会場の様子】



【功労者表彰の様子】



【岩井会長が受賞】



群馬県治水砂防協会通常総会及び講演会の開催

令和6年7月11日に群馬県商工連会館において、令和6年度通常総会が会員市町村長等26名の出席のもと開催されました。津久井副知事、須藤群馬県議会議長、越智国土交通省砂防部砂防計画調整官、(一社)全国治水砂防協会大野理事長にご臨席を賜り、ご祝辞をいただきました。

総会では、令和5年度事業報告・収支決算報告、令和6年度事業計画案・収支予算案等が原案どおり可決・承認されました。また、役員改選が行われ、新副会長に熊川栄嬌恋村長、新監事に阿部賢一みなみ町長が選任されました。

通常総会終了後、越智砂防計画調整官に「『いのち』と『くらし』と『みどり』を守る砂防」と題し、また、(一社)全国治水砂防協会大野理事長から「砂防についての話題」と題してご講演いただき、会員市町村長ほか多くの市町村職員等が聴講しました。



【岩井会長のあいさつ】

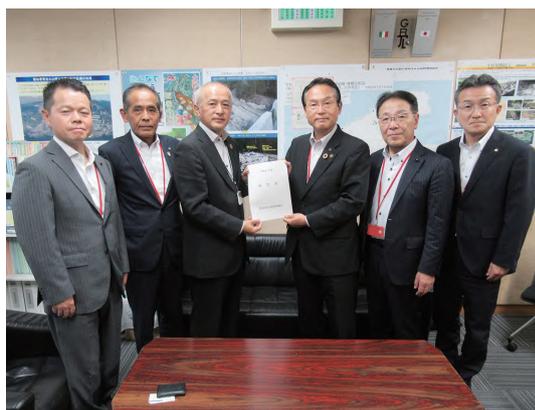


【大野理事長の講演】



国土交通省砂防部長への要望活動の実施

令和6年9月4日に国土交通省において、岩井会長、星名副会長、金井監事、阿部監事、宮前顧問が草野砂防部長へ要望活動を行いました。



【要望書提出】



【意見交換の様子】



現地視察研修の実施

令和6年10月22日に金井監事、阿部監事をはじめ市町村及び県の土木事務所等の職員17名が参加し、砂防に関する知識及び技術の向上、砂防事業の促進を図ることを目的に、嬭恋村の大笹上流床固群及び浅間山麓の地蔵川第一砂防堰堤の視察研修を実施しました。

当日は、国土交通省利根川水系砂防事務所大坂所長はじめ同事務所の皆様にご説明をいただきながら、事業への理解を深めました。

大笹上流床固群は、令和元年東日本台風(台風19号)により、嬭恋村で発生した土砂災害について、河川内に堆積した不安定な土砂等が流出して二次災害にならないよう床固群を設置するものです。地蔵川第一砂防堰堤は、浅間山が噴火した場合に他の砂防堰堤等とともに火砕流等による災害を減らすために整備が進められている施設です。



【大笹上流床固群】



【地蔵川第一砂防堰堤】



【参加者】



全国治水砂防協会関東甲地区協議会通常総会への出席

令和6年11月7日～8日に栃木県日光市の日光きぬ川ホテル三日月において、令和6年度全国治水砂防協会関東甲地区協議会通常総会が開催され、岩井会長等4名が出席しました。初日の総会では、令和5年度事業報告・収支決算報告、令和6年度事業計画案・収支予算案が原案どおり可決・承認されました。

総会後に開催された会長(支部長)会議では、国土交通省草野砂防部長と(一社)全国治水砂防協会大野理事長から講演が行われました。

翌日は、同市芹沢地区における土石流災害対策工事現場及び五十里ダムを視察しました。



【草野砂防部長の講演】



【芹沢地区】



【五十里ダム】



「全国治水砂防促進大会」への出席及び要望活動の実施

令和6年11月14日に砂防会館別館シェーンバッハ・サボーにおいて、「全国治水砂防促進大会」が開催されました。全国から会員等約1,600名が出席し、本県からは岩井会長をはじめ市町村長等17名が出席しました。

開会に先立ち、中北英一京都大学防災研究所教授による「災害環境における気候変動影響予測と適応に向けて」と題した特別講演が行われました。

促進大会では、国土交通省草野砂防部長から「『いのち』と『くらし』と『みどり』を守る砂防」と題した講演が行われ、その後、坂口茂石川県輪島市長と米田徹新潟県糸魚川市長から意見発表が行われました。最後に、大会提言が満場一致で採択されました。

大会終了後、熊川副会長をはじめ、町村長等が県選出国會議員へ要望活動を行いました。



【会場の様子】



【要望活動(中央に中曽根参議院議員)】

土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール開催

群馬県と群馬県治水砂防協会は共催で、毎年6月の「土砂災害防止月間」に、土砂災害に対する理解と関心を深めるために、小・中学生の皆さんから「土砂災害防止に関する絵画・作文」を募集しています。

令和6年度は、絵画87点、作文52点の応募があり、下の表の15作品が入賞し、最優秀賞及び優秀賞の作品の一部を全国審査のため国土交通省へ推薦しました。

全国では、絵画2,620点、作文1,037点の応募があり、群馬県から4点の作品が優秀賞(国土交通事務次官賞)を受賞しました。たくさんのご応募ありがとうございました。また、受賞された皆さんおめでとうございます。

群馬県審査受賞者(敬称略)

絵画の部

小学生	最優秀賞	新居 郁人	高崎市立乗附小学校	4年
	優秀賞	石井 萌々香	高崎市立中室田小学校	5年
中学生	最優秀賞	近藤 初音	藤岡市立東中学校	2年
	優秀賞	木暮 あいな	高崎市立第一中学校	2年
	優秀賞	田中 礼	高崎市立第一中学校	1年
	奨励賞	岡野 菜月	藤岡市立東中学校	2年
	奨励賞	鈴木 りお	玉村町立玉村中学校	1年
	奨励賞	萩原ひまわり	富岡市立妙義中学校	1年

作文の部

小学生	最優秀賞	岩森 斗哉	みどり市立笠懸西小学校	5年
	優秀賞	松原 愛	みどり市立笠懸西小学校	6年
	奨励賞	岡崎 那々夏	みどり市立笠懸西小学校	5年
中学生	最優秀賞	六川 美梨亜	渋川市立渋川中学校	3年
	最優秀賞	小菅 優芽	渋川市立渋川中学校	3年
	優秀賞	清水 咲希	渋川市立渋川中学校	3年
	奨励賞	三原 悠佳	渋川市立渋川中学校	3年

全国審査受賞者(敬称略)

優秀賞(国土交通事務次官賞)

絵画(小学生)の部	新居 郁人	高崎市立乗附小学校	4年
絵画(中学生)の部	近藤 初音	藤岡市立東中学校	2年
	田中 礼	高崎市立第一中学校	1年
作文(中学生)の部	六川 美梨亜	渋川市立渋川中学校	3年

※各受賞作品につきましては、群馬県ホームページの砂防課のページに掲載していますので、是非ご覧ください。

<https://www.pref.gunma.jp/page/672254.html>



絵画部門

【小学生】

最優秀賞(群馬県知事賞)



「榛名川上流砂防堰堤」

高崎市立乗附小学校 4年 新居 郁人 さん

優秀賞(群馬県治水砂防協会長賞)



「まよな命が一番」

高崎市立中室田小学校 5年 石井 萌々香 さん

【中学生】

最優秀賞(群馬県知事賞)



「『まだ大丈夫』が命取り」

藤岡市立東中学校 2年 近藤 初音 さん

優秀賞(群馬県治水砂防協会長賞)



「素早く行動 命を守れ」

高崎市立第一中学校 2年 木暮 あいな さん

優秀賞(群馬県治水砂防協会長賞)



「人命第一すぐ避難」

高崎市立第一中学校 1年 田中 礼 さん



最優秀賞(群馬県知事賞) 「土砂災害から命を守るために」

みどり市立笠懸西小学校 5年 岩森 斗哉 さん

近年ぞう加けい向にある土砂災害の発生件数は、10年間で平均1450件もあるとされているそうです。日本は島国であるためなのか、世界でも災害の割合が高い国とされていることもあり、ぼくたち一人一人が正しい情報と自覚をもつことが大切なことだと思いました。

ぼくはまず、何が大事か何が必要かを考えました。一つは、命が大事なのはもちろんですが、その命を守るためには、もしもの時を考えて水や食料、救急用品、防寒具などの防災グッズを家に備えておくことが必要だと思いました。あと、頭を守るためにヘルメットも必要ですね。二つめは、正確な情報を一人一人が知っておくことです。ひなん場所の確認やハザードマップポータルサイトなどで確認できる土砂災害けいかいいきを知っておくことが必要であると思いました。正しい情報は自分の命を守るために必要なことです。だれも死にたくはない、家族のだれも死んでほしくはないと思っています。気持ちの余ゆうは油断です。不幸な思いをしないように準備して災害に備えることが大切なことだと思ひます。

ぼくはまだ土砂災害の経験をしたことがありません。ですが、テレビで災害のニュースを見ることは何度もありました。土砂が民家に流れていく様子を見て、思わずテレビごしに「うわあ…やばい…」と言ってしまうほど自然災害のおそろしさを感ひしました。今、人が流されたんじゃ？あの家の中に人はいなかったのかと思ひたり、実さいに土にうもれて命をなくす人も多くなたりして、もし自分だったらと思ひと死にたくはないと思ひが強くありました。命をなくし残された家族の人の心の想ひを考えると、とてもむねがいたみます。ですが、時間がたってしまうと危機感がだんだんとうすれていき、そのまま事態がおきてしまつて後かいする結果となつてしまつたという人も少なくないのではと思ひます。とくにぼくのように災害経験がない人が多数だと思ひます。

どうしたら実体験のない人に危険性と自覚をもつてもらふことができますか。小学五年生のぼくなり考へてですが、自覚をもつといつてもどうやつて？となつと思ひます。そのためにはまず、人の心に届くような実体験をした人の話を聞いたり、ノンフィクションの映画やSNSなどによる発信を目にするこつで、災害のおそろしさと命の大切さを改めて感ひしてもらふこつからなのかなと思ひます。また、ボランティア活動にも参加してみるのもいいなと思ひました。あたりまえの生活があつたままではなくなつてしまつた人たちの心にしみつた思ひをぼくも聞いてみたいです。

ぼくの家には少し前まで防災グッズなどがありませんでした。テレビニュースでも災害のおそろしさをから身を守るために必要なこつで防災グッズが紹介されていたので母にそのこつを伝えました。母も家に防災グッズがないこつを心配していたよつで、母にはちゃんと自覚があつたのだなと安心しました。今では家族の人数分の水や食料、防災グッズが家に備えられています。もし災害にあつたときは、早めの判断とひなんをして自分の命、家族の命を守るこつを第一に考へて行動するこつを心がけます。



最優秀賞(群馬県知事賞) 「知ることの大切さ」

渋川市立渋川中学校 3年 六川 美梨亜 さん

群馬県渋川市。こつは、私が生まれてから今までずっと暮らしている平和な町だ。平和といふのには、訳がある。洪水もなければ土砂災害もない。津波なんて絶対に来ない。私が小さい頃は、災害なんて作り話か何かだと思ひて、一つも信じないほどだつた。祖母はニュースで災害があつた映像を目にするこつで「ばあちゃんの田舎はね…」と昔あつたこつを話してくれる。私の祖母は栃木県の山奥の田舎で生まれ住んでいた。今住んでいる渋川ではありえない多種多様な体験をしたり、災害にあつたりしたそつだ。地震だとか、初めて洪水を体験したこつ、大叔父のこつ。私は体験したこつのない話ばかりで祖母の話に聞き入ってしまう。そんな中で最も印象強く心に残っているのは大叔父の話。

当時、大叔父は山で作業をしていた。その日はいつもと変わりない晴天の日だつた。数人の仲間たちと「作業早く終わらないかな。」「終わつたら少し休憩するか。」なんて、呑気に話をしていたそつだ。普段と変わりない日常。大叔父は黙々と作業をこなしていた。その日常を一変させるこつが起きた。それは地震によつてがけが崩れ、山のとっぺんにあつた大きな石が転がり落ちてきたといふ。ゴゴゴと大きな音を立て落ちて来る石や土砂に仲間たちは「早く逃げろ。」「危険だ。」と叫びながら逃げたそつだ。しかし、あつという間の出来事に大叔父は間に合わず、体を覆つてしまふほどの大きな石の下敷きになつてしまつたといふ。そして、この落石と土砂崩れにより大叔父を含む三人の命がなくなつたといふ辛い話だ。話を聞き、想像しただけで怖い話だつた。話すこつが大好きな祖母なのに言葉を詰ませ、この話を涙を目の中いっばいに溜めながら私に話してくれた。「他人事だと思わないで欲しい。体験しないこつが一番いいけど、今こつして話しているときも災害の被害にあつて大変な思ひをしている人もたくさんいるの。目を背けず災害のこつを知ろうとするこつも大事だよ。」と言つた。

私は、祖母に言われた通りに土砂災害について調べてみるこつにした。土砂災害は大きくわけて「土石流・地すべり・がけ崩れ」の三つに分類するこつができる。「土石流」は、大雨などが原因で山や谷の土・石・砂などが崩れ、水とまじつてどろどろになり、一気に流れ出てくる現象のこつ。破壊力が大きく、速度も速いので、大きな被害をもたらす。「地すべり」

は、ゆるい傾きの斜面が、雨や雪解け水が染みこんだ地下水によって、広い範囲にわたってすべり落ちていく現象のこと。「がけ崩れ」は、雨水ががけにたくさん染み込んだことや地震のゆれが原因で、急な斜面が突然崩れ落ちる現象のこと。祖母が話していたのは、おそらく「がけ崩れ」のことだろう。がけ崩れの画像も見てみると、よくニュースなどで見かける悲惨なものばかりだった。

土砂災害なんてほとんど関わることがないと思っていた私にとってショックがすごく大きかった。土砂災害に限らず、災害が正確にいつくるかなんて誰にも予想できない。しかし、災害に対して何も対策できないわけではない。例えば、もし土砂災害が起きた時、家族が一緒の場所にいる時なら問題ないが、私が学校、母や父が仕事、祖母が家のように、家族がそれぞれが別々の場所にいたとしたら…。家族は無事かどうか、家族に会えるのはいつか、心配になるだろう。そうならないように、避難する場所を決めておくべきだ。私の家では、避難所に指定されている南小に集まるように決めている。あとは、自分の家が土砂災害警戒区域にあるかどうか調べてみる。これは、自分の家だけでなく、旅行などで訪れる場所も土砂災害警戒区域にあるか調べることも大切だと思う。また、避難時に必要な防災バックの用意も大切だ。食料などの消費期限は、物によるが、ほとんど五年くらいだそう。だから、何年かに一度、消費期限を確認して買い替えるべきだ。もし家に防災バックがないなら、今ではお店で手軽に防災グッズを手に入れることができるから、用意しておいた方がいいと思う。

「災害なんて起きないだろう。自分は大丈夫だろう」。なんて思って油断しているからこそ、もしものことを考えておくべきだ。私に今できることは、災害に備えること。そして、「今」を楽しみ、私の大切な命に感謝することだ。



最優秀賞(群馬県知事賞) 「命を守るキーワード」

渋川市立渋川中学校 3年 小菅 優芽 さん

小学校低学年のころ、今でも思い出す大雨の日があった。とてつもない勢いで屋根にうちつけられる雨の音。外を見ると、無数の透明な針が灰色の空から降ってくるようだった。なにより一番衝撃をうけたのは、家の近くにある水路の水がにごった茶色になり、今にもあふれそうに流れていたことだ。いつもは穏やかに流れている水が、たった半日の雨でこんなにも汚れ、陸地に迫ってくるかのように増えるのかと思うと、血の気が引いた。

最近をよく土砂災害についてのニュースを見かけるようになった。道路にあふれる泥。土砂崩れによって埋まってしまった民家。その周辺を捜索する救助隊の姿。深緑の木々の間がうすぐらい茶色の土で隔てられているようだった。別の番組では河原が見えないくらい川が増水し、上にかかった橋のぎりぎりまで水位が高くなっている様子が映しだされていた。それを見た瞬間、あの大雨の日の水路のことを思い出した。あれでもこわかったのにもし近くの大きな川がこのようになってしまったら…。そのとき大雨、そして土砂災害は自分が思っているよりもずっと恐ろしいものだ気づいたのだ。

このような恐ろしい土砂災害から大切な命を守るために重要なことは一刻も早く逃げることだと思う。自分の命を守ることができるのは自分だけだ。

そこで私は、火災から避難する際に大切な「おはしも」にならって、災害から避難する際の自分なりのキーワードを考えてみた。それは「おかゆも」だ。

まず、「お」は落ちついて行動する、だ。もし警報や避難指示が出たら、冷静な判断をして、すみやかに行動に移すことが重要だ。あせらないように、防災グッズを用意し取りやすい場所に置いておくなど、落ちついて行動するためのことを普段から備えるのも大切なことだと思う。

次に「か」は「確認する」だ。まず、災害の情報を確認すること。どこで発生したか、自分の住んでいる地域は大丈夫か、などの情報をすばやく確認することでそれに応じた行動をとれる。次にハザードマップの確認。災害がおきてしまう前に避難場所や避難経路、危険な場所などをしっかり確認しておくことはすばや避難につながる。最後に連絡手段の確認。災害はいつおこるかかわからない。だから、家族などと災害発生時どうやって連絡をとるか、どこに集合するかなど話し合うことが必要だと思う。これらの三つの確認を通して日頃からの防災意識を高めてほしい。

そして「ゆ」は「油断しない」だ。SNSなどで、日本人は災害に慣れすぎている、という投稿を見かけることがある。確かに度重なる災害に対して慣れてしまっている現状があるように思う。しかし、油断は禁物だ。いくら大丈夫だ、と思っても、想定されている以上に被害が及んでしまうかもしれない。災害を決して甘く見ず、自分の命を守るための最善の行動をとることは本当に重要だ。

最後に「も」。これは「おはしも」と同様に「もどらない」だ。いざ避難した際になにか忘れ物などがあっても、絶対にもどってはいけない。どんな物よりも、命が一番大切だ。命を最優先に、もどらず安全な場所まで避難してほしい。

普段から防災意識を高め、災害についてやその対策などの知識を身につけておくことがとても大事である。そして、いざというときにこの「おかゆも」で大切な命を守ってほしいと思う。

恐ろしい災害から命を守るための備えを、私自身改めて確認しようと思った。防災についてもっと調べ、いつか自分の命を守る盾にしたい。

災害はいつおこるかかわからない。災害をなくすことはほぼ不可能なことだ。だから、今できるうちに防災グッズを備えたり、避難経路を確認することは本当に大切だ。その一つ一つの行動の積み重ねが自分の大事な命を守ることにつながるのだ。

群馬県における土砂災害対策事業の紹介

土砂災害対策推進計画2025

土砂災害対策推進計画とは

土石流やがけ崩れなどの土砂災害から県民の生命と財産を守るため、砂防えん堤やがけ崩れ防止施設などの施設整備（ハード対策）と防災マップや避難計画の作成などの警戒避難体制構築の支援（ソフト対策）を「どのような考え方で、どのように進めていくか」を示す県土整備分野の個別基本計画です。

令和6年度に前計画（土砂災害対策推進計画2021）の進捗状況や現状の課題を踏まえた見直しを行い、令和7年3月に本計画を策定しました。

計画期間 令和7年度～令和16年度の10年間

ハード対策

方針 土砂災害リスクを軽減させる防災インフラ整備

取組1 人家等に著しい被害が生じるおそれのある区域を保全する施設整備

目標 令和16年度までにレッドゾーン内の人家約250戸の土砂災害リスクを軽減する。

取組2 多くの人家等に被害が生じるおそれのある区域を保全する施設整備

目標 令和16年度までにイエローゾーン内の人家約2,900戸の土砂災害リスクを軽減する。

取組3 迂回路のない道路を保全する施設整備【孤立対策】

目標 令和16年度までに迂回路のない道路16箇所の対策を完了する。

取組4 重要交通網（緊急輸送道路、鉄道）を保全する施設整備

目標 緊急輸送道路や鉄道などの重要な交通網の土砂災害による寸断リスクを軽減する。

取組5 土砂・洪水氾濫のおそれのある流域の抽出と対策検討【流域治水】

目標 大きな被害のおそれのある流域を抽出し、対策について検討する。

ソフト対策

方針 土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」に向けた避難行動の促進

取組1 土砂災害警戒区域等の見直し

目標 土砂災害警戒区域等の3巡目見直しを行い、令和11年度までに27市町村の指定を完了する。

取組2 主体的に避難する力を育む防災教育の支援と防災意識醸成のための広報

目標 令和16年度までに主体的に避難する力を育むための防災教育の支援を35市町村の小学校で実施する。

取組3 土砂災害警戒情報の発信

目標 土砂災害警戒情報の発表基準等を見直し精度を向上させるとともに、利用者ニーズを踏まえて情報提供システムを改良する。

取組4 住民主体の防災マップ作成や避難訓練の支援

目標 住民が自らの意思で適切な避難行動がとれるよう、自主避難計画の作成・避難訓練を支援する。また、要配慮者利用施設の避難確保計画に基づく避難訓練を支援する。

取組5 土砂災害警戒区域等を周知する標識の設置

目標 土砂災害が発生するおそれのある区域を住民に知ってもらうため、土砂災害警戒区域等を周知する標識を設置する。

群馬県砂防関係施設長寿命化計画2022

砂防関係施設長寿命化計画とは

土砂災害から県民の生命と財産を守るため、既存の砂防関係施設の必要な機能を長年にわたって安全に使用し続けることを目的に、維持管理・更新に要するトータルコストの縮減と予算の平準化を図るよう定めた県土整備分野の個別基本計画です。

本計画に基づき、巡視や定期点検で施設の変状把握を行うとともに、健全度C（要対策）の対策を進め、令和6年度までに75箇所の対策が完了しました。

施設現状 令和4年3月

砂防関係施設	施設数	健全度A	健全度B	健全度C
砂防設備	2,883	1,075	1,681	130
急傾斜地崩壊防止施設	639	255	350	34
地すべり防止施設	68	19	13	36
雪崩防止施設	6	2	3	1
合計	3,596	1,351	2,047	201

健全度A：対策不要 健全度B：経過観察 健全度C：要対策

課題1 施設の老朽化

健全度の低下や新たな被災により、健全度Cの要対策箇所が多数確認されています。

課題2 進む担い手不足

就業者数の減少による技術者の確保困難と人件費の増大により、業界への負担と財政の圧迫が増大しています。

課題3 膨大で複雑なデータベース

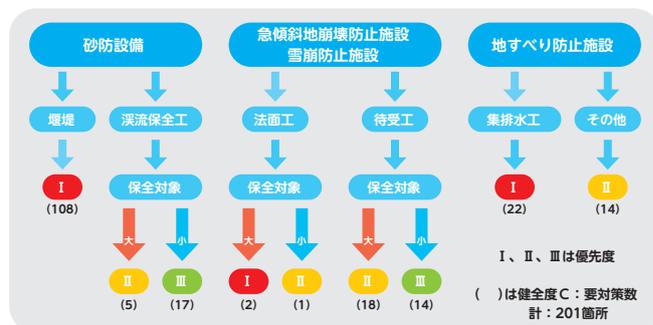
工事後、点検後、対策後のデータなどの既存のデータベースが複雑で活用しにくい状況です。

計画期間 令和4年度～令和53年度の50年間

維持管理計画 令和4年度～令和11年度の8年間

対策1 計画的な長寿命化対策の推進

維持管理・更新に要するトータルコストの縮減と予算の平準化及び優先順位の見直しにより効率的に対策を行います。



対策2 持続可能な点検計画による生産性向上

点検頻度の見直し・適正化や新技術（ドローン等）の導入により、点検作業の生産性を向上させます。

対策3 管理データの一元化

データの確実な蓄積や管理方法のルール化により、データ精度を向上させます。また、県土整備部として一元管理することでデータの利便性を向上させます。



令和6年度に完成した主な施設

通常砂防事業 にしからほりさわ 『西空堀沢』(みなかみ町猿ヶ京温泉地先)

全体事業費：334百万円

保全対象：人家203戸、国道17号等

事業概要：砂防えん堤工(透過型) H=7.0m L=22.0m



急傾斜地崩壊対策事業 しおい 『塩井2地区』(沼田市白沢町平出地内)

全体事業費：160百万円

保全対象：要配慮者利用施設、公共的建物、人家1戸

事業概要：法枠工 A=1,890m²

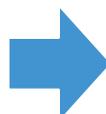


砂防メンテナンス事業 だいらんさわ 『大輪沢』(渋川市祖母島地先)

全体事業費：115百万円

事業概要：砂防えん堤改築工 H=8m L=28.5m

施設概要：昭和29年設置





土砂災害警戒区域等の3巡目見直し

土砂災害が発生するおそれのある箇所について、砂防基礎調査結果に基づき、住民の生命又は身体に危害が生ずるおそれのある範囲を明らかにし、警戒避難体制の整備促進や一定の開発行為の制限、建築物の構造規制等を行うため、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定しています。

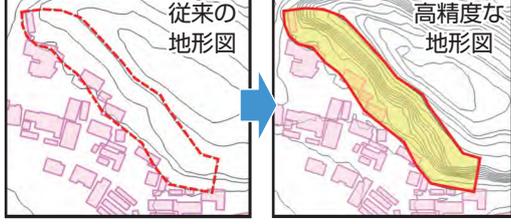
群馬県では、平成26年10月に初回の指定が完了し、その後概ね5年毎に区域の見直しを行っています。

令和3年度からは、3巡目見直しとして、地形改変箇所等における既指定区域の見直しを進めるとともに、高精度な地形図を活用することで、これまで抽出できなかった土砂災害が発生するおそれのある箇所を新たに抽出する新規箇所調査を実施しています。

◆ 県内の土砂災害警戒区域数：9,072箇所(うち特別警戒区域：8,081箇所) [令和7年2月末現在]

群馬県が提供する統合型地理情報システム「マッピングぐんま」にて、土砂災害警戒区域等を地図上で確認することができます。

マッピングぐんま 検索

従来の地形図 → 高精度な地形図

高精度な地形図を用いた区域抽出



「住民主体の土砂災害警戒避難体制構築」の推進

地域住民が自らの意思で適切な避難行動がとれるよう、住民懇談会を開催し、その地域独自の自主避難計画(自主避難ルール・防災マップ)を作成するとともに、その計画を基にした避難訓練の支援をしています。

令和6年度は、太田市において支援を実施しました。





○住民懇談会の開催
地図を囲み、地域の人だけが知っている予兆現象等の情報を地図に集約し、住民自らが地域独自の防災マップを作成します。

○地域独自の自主避難計画とその周知
数回の住民懇談会を通して、地域独自の自主避難計画を完成させ、警戒避難体制の仕組みを地域住民全員に周知します。

○避難訓練の実施
完成した自主避難計画を用いて、実際に避難訓練を行い、連絡体制の確認などを行います。



土砂災害警戒区域内の「要配慮者利用施設」への避難訓練支援

「土砂災害防止法」では、要配慮者利用施設の避難の実効性確保のため、避難確保計画の作成及び避難訓練の実施、市町村長への訓練結果の報告が義務付けられています。群馬県では、令和4年度に施設での避難確保計画の作成率100%を達成し、現在は施設利用者の円滑かつ迅速な避難確保のための避難訓練支援を実施しています。

令和6年度は、嬭恋村の通所介護施設において支援を実施しました。

～これまでの実践支援事例～






情報収集・伝達(共有) 防災体制の確認

避難訓練<災害図上型> 施設周辺や施設内の地図を利用して避難誘導を確認

避難訓練<実践型> 実際に避難場所まで避難



主体的に避難する力を育む防災教育の教材作成

群馬県では、土砂災害からの「逃げ遅れゼロ」を目指し、県教育委員会や学校等と連携し、小さい頃から主体的に避難する力を育む防災教育の推進を支援しています。学校現場では、教員の多忙化や防災教育の指導方法がわからない等の課題があることから、多忙な学校現場でも教員が負担なく指導できることを目的に、令和5年度から小学校高学年を対象とした防災教材の作成に着手しました。また、より使いやすい教材とするために、令和6年度に5校でモデル授業を実施しました。今後は、モデル授業の結果を教材に反映し、教材の普及と継続的な防災教育の推進に向け取り組んでいきます。

「群馬の災害」を用意
地域に合わせた写真を自由に入れられる！
アニメーション・動画も掲載！

授業用スライド

児童のワークシート

学習指導案

副読本

授業中に使用する教材
先生の**授業準備を軽減**

先生のための指導マニュアル
先生の**「教え方がわからない」を補助**

児童の復習
理解を深める

◆ モデル授業の様子



先生が教材を使って授業する様子



児童が自ら考え挙手する様子



児童が避難について話し合う様子

《モデル授業を実施した先生と児童の声》

- ◎先生：これまで防災の授業を実施した経験がなく不安だったが、資料が一通りそろっていたため、安心できた。
- ◎児童：避難を自分で判断して行動することが大切だと知った。



ぐんま大雨時デジタル避難訓練の配信

◆ 「ぐんま大雨時デジタル避難訓練」とは

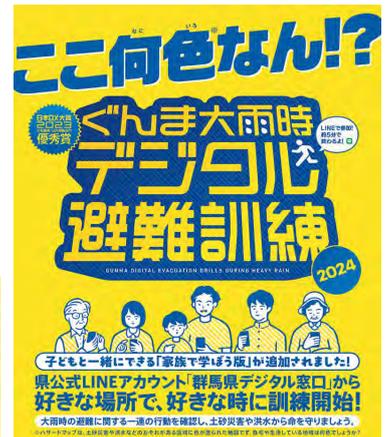
群馬県では、県民の防災意識向上を目的に、県公式LINEアカウント「群馬県デジタル窓口」を活用し、スマートフォンを使って、大雨や台風時に必要な情報を収集し、避難に関する一連の行動を確認できる「ぐんま大雨時デジタル避難訓練」を配信しています。

◆ 令和6年度の実施内容

- ・「子どもと一緒にやりたい」という声に応え、小学生にもわかりやすい「家族で学ぼう版」を追加し機能を拡充(令和6年6月～)
- ・これまでのスマートフォンでの避難訓練に加え、パソコンやタブレットでも実施可能な「ブラウザ版」の配信を開始(令和6年9月～)

【ブラウザ版URL】

URL : <https://p3.govtech-express.com/webui/1654447876?survey=a00J300000QW0dMAO>



群馬県砂防ボランティア協会の活動

群馬県砂防ボランティア協会(金田一広 会長)は、県職員OB約100名の会員で構成され、土砂災害から県民の生命や財産を守るため、砂防施設や土砂災害警戒区域の点検等のボランティア活動を行っています。

令和6年度は、10月31日、11月1日に県内各地域の砂防施設の定期点検等を実施しました。この点検結果に基づき各土木事務所で対策を行いました。

【定期点検の様子】



【東毛班(8名参加)】



【西毛班(6名参加)】



【吾妻班(6名参加)】



【利根沼田班(6名参加)】

あ と が き

「ぐんまの砂防」Vol.22をお届けいたします。

本誌は平成12年度に創刊し、治水砂防に関する事業の普及促進につながる様々な取り組みを掲載してきました。

今号では、当協会の活動、土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール、群馬県の土砂災害対策事業、砂防ボランティア協会の活動をご紹介します。特に、土砂災害防止に関する絵画・作文コンクールでは、各作品とも小中学生の土砂災害防止への意識の高さを伺うことができました。たくさんご応募くださいまして改めて感謝いたします。

また、各活動にご協力くださいました会員市町村はじめ関係各位に、この場をお借りして深く感謝いたします。

これからも充実した「ぐんまの砂防」の編集・発行に努めていきますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

編集・発行 ■ **群馬県治水砂防協会(群馬県県土整備部砂防課内)**

〒371-8570 群馬県前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-3631